

膣内フローラ検査

認定マイクrobiオーム解析士による
個別アドバイス付き



VAGINA

女性が健康的に輝いていられるためには、膣内環境はとても大切です。

女性は10代からの月経から始まり、妊娠、出産、そして閉経までと、膣内の環境は大きく変化していきます。日々のストレスや加齢により膣内フローラが乱れると膣や子宮内に悪玉菌が増えてしまいます。

そうならないために膣内に必要なのがラクトバチルスという乳酸菌です。

ラクトバチルスから産生される乳酸が膣内やデリケートゾーンを酸性にして外部からの雑菌から守ってくれます。ご自身の膣内のタイプを知り、いつの年代でも輝いて気持ちよく過ごせるように、膣内ケアを始めましょう。

お名前: 船越 紀子 様

検査日: 2023/04/27

検体番号: REG-V-0030

MB解析担当: 大村 佳子

あなたのCSTは

4-C型

1 型	L. crispatus	4 型	ABC(Cは5つに分類)
2 型	L.gasseri	5 型	L. jensenii
3 型	L. iners	6 型	その他

CSTとはCommunity State Typeの略で膈内の細菌の割合でタイプ別に分類しています。CST 1、2、3、および5はすべて、単一のLactobacillus種によって支配されており、CST 4の方は細菌性膈炎（Bacterial vaginosis）、好気性膈炎、尿路感染症、不妊、早産などのリスクが高い状態です。CST 4はさらに3つの小さなサブタイプに細分され、4-Cはさらに5つの追加のサブタイプに分類されています。その他のラクトバチルス種の優勢菌種によりCST5とCST6に分類されます。

ラクトバチルスの割合 90%以上が理想	BVリスク細菌の割合 0%が理想
21.52 %	77.52 %

乳酸菌が減ると細菌性膈症になりやすくなります。乳酸菌が減少する原因はいくつかあります。抗生剤、性交渉、膈の洗浄、ストレス、女性ホルモンの変動（ピル、生理）などになります。細菌性膈炎に原因菌があるというよりも、何らかの原因で膈内の細菌バランスが崩れた時に発症します。細菌性膈炎は、以下の性感染症と症状がよく似ています。
・淋菌・クラミジア・トリコモナス・カンジダ

早産リスク細菌	0.00 %
不妊リスク細菌	0.00 %

あなたへのアドバイス

あなたのCSTは4型に分類されます。4型はLactobacillusによって支配されていません。代わりに、種の多様性が高く、酸性度が低い5.0から5.5の範囲の高いpHを持ちます。前回から比べてラクトバチルスの割合が高くなっているのでこのまま増やしましょう。免疫力が低下するときにリスク細菌が増殖するきっかけになります。そうならないためには腸内環境を整えてストレスを溜めないようにして、更にはラクトバチルスが減らないようにしましょう。膈を洗いすぎると、せっかくの乳酸菌がいなくなってしまう。その瞬間はスッキリしますが、その後はむしろ雑菌が入りやすくなります。デリケートゾーン専用のものを使用するようにしましょう。生理の前後や睡眠不足、疲労やストレスがきっかけにラクトバチルスが減少します。腸内環境を整え、膈内環境改善の専用のもので対策してください。